

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1871700397		
法人名	社会福祉法人 坂井来春会		
事業所名	グループホームさかい 東ユニット		
所在地	福井県坂井市坂井町折戸1-58		
自己評価作成日	平成25年 7月 22日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成25年9月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1	毎朝朝礼後、基本理念・目標を全員で唱和し、資質の向上と意識の共有化を図っている。
2	家族会の協力を得て、事業所との連携を図り、サービスの向上に繋げている。
3	職員研修を毎月、項目を掲げ実施している。
4	感染症・疾病の予防に向け施設内外の清潔保持を心がけている。また、期間を定めて、外出・外泊の制限やご家族様の面会制限により感染症予防に努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、周囲を田畑に囲まれた坂井平野に立地している。同敷地内には、介護老人保健施設、通所リハビリテーション事業所、居宅介護支援事業所があり、3階建ての建物の2階部分がグループホーム、1階がデイサービスセンター、3階がショートステイとなっている。ホームのおやつ作りや風船バレー大会等の行事には地域住民の参加を得て交流している。また、介護老人保健施設の医師が1日1回、状況確認に訪れる等、医療連携を意識しながら運営している。また、日々利用者が笑顔で過ごせることを大切に考えながら利用者一人ひとりの尊厳を大切し、利用者が穏やかに生活できるよう支援している。さらに、家族が話しやすいように職員の顔写真と名前を掲示するなど家族の意見収集にも工夫しており、開設後10年を迎える事業所として、更なる認知症ケアの充実が期待できる事業所である。</p>
--

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の打ち合わせのなかで、管理者と職員全員でホームの理念を唱和し、理念の共有化を図っている。また、理念をパンフレットに同封したり契約時にも説明している。	事業所独自の基本理念を作成し、具体的なケアの方針を作成しており、事業所入口に掲示し毎朝の朝礼で唱和している。理念が職員に浸透しており、日々のケアで実践を行っている。	理念に基づいた教育プログラムを作成し、職員の個人目標を作成するなど、よりサービスの質の向上に努められることを期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや公民館の行事に参加するほか、ホームの催しごとに地域の方を招待するなど地域交流の機会を持てるよう配慮している。	法人として町内会に加入し、地域の祭りや公民館活動に参加している。また、地区の運動会等にも参観に行き、交流を図っている。なお、ホーム行事のおやつ作り風船バレー大会等には地域住民の参加もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ十分とは言えないが地元の方にも参加を呼びかけ介護教室を開催している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表・家族代表・民生委員・地域住民代表・行政職員が、2か月に一回の推進会議を開催し、運営上の問題点や事故があった場合はその情報を公開し、共有化を図っている。	運営推進会議を2か月に1回開催しており、事業所運営状況を報告し、意見を得ている。また、会議の中で行事等への参加依頼を行うなど、情報交換の場となっている。	運営推進会議で話し合った内容や出された意見に対する事業所の対応等を議事録にまとめ事業所内に掲示したり、家族に送付するなど事業所の方針をより明確に家族等に伝わる取り組みを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故の報告や、運営推進会議等を通じて行政とのつながりを持ちつつ協力関係を構築している。	市町の担当者、地域包括支援センターと運営推進会議等を通して連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、止むを得ず安全の確保のため開錠してはいいないが、それ以外の点については自由を束縛すると認められる処遇は行っていない。	建物の玄関は、外から入るには開錠が必要だが、外に出るときはセンサーで自由に出ることができる。また、エレベーターは入所者の安全のために施錠している。身体拘束廃止の理念を文書化し掲示しており、朝礼で唱和している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	完璧にはまだ遠い感があるも、概ね基本理念通りのことを実践できているのではないかと。特に言葉づかいを含め管理者の虐待に対する方針を職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修により、今後成年後見人制度の仕組みや知識を深める機会を多く設けるよう今後取り組んでいく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に、重要事項説明書、契約書を提示してご利用者様、御家族様に説明しご理解を得たうえで利用契約を締結している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会に行事や日々の運営の協力を得ている。家族会では、家族同士が気兼ねなく話し合えるよう環境づくりに配慮しその時の意見をもとにサービスの見直しに取り組んでいる。	家族がホーム来訪時に、意見・要望を聞くようにしている。行事の際に家族会に協力を依頼したり、畑の手入れ等の際に意見を聞いたりしている。また、話しやすいように職員の顔写真と名前を掲示するなど工夫している。	定期的に利用者や家族等のアンケートを行い、広報誌等を利用して結果や改善点を家族に伝えるとともに、家族の意見や要望を運営に取り入れることに期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中で、日常的に職員の意見、提案等を受け入れ、良いものは取り入れている。休暇等の要望はできうる限り実現できるよう調整している。毎日の打ち合わせにおいても意見や要望を聞く機会を設けている。	業務運営上の意見はミーティング等で話し合っており、解決方法を協議している。また、その場へ出た意見・要望、改善方法等は周知し、共有している。	職員への面談を定期的実施し、個別の意見や提案を出しやすい機会設けることを期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週二日程度グループホームに来て運営状況・職員の勤務状況を把握しつつ職員が向上心を持って働けるよう職員配置等に配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修には積極的に参加している。また、内部研修も設け計画的に実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することによって、情報交換しながら交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々、利用者の方を観察しコミュニケーションを図る。同じ目線で笑顔で話を聞くようにし安心感を持っていただけるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み時点で、御家族様のお話を伺い不安を解消できるよう、その思いをよく傾聴し受け止めるよう配慮している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員によるご家族とご利用者に対する聞き取りに十分な時間を使い初期段階での対応を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を、介護される一方の立場には置いていることはなく、御本人が自然な生活を享受できるよう信頼関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には出来る限り来所していただき、ご利用者との疎通が図れるよう働きかけている。近況をご家族にお伝えし話し合いの場を持ちつつ共にご本人を支えることができるよう配慮している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年は、思い出の場所として吉崎御坊へ参詣し、車の中でも手を合わせられたりして馴染みの場所との関係継続に配慮しつつ支援した。	個別の対応は現在実施していないが複数名でのなじみの場所への外出や思い出の場所への外出支援等を実施している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、誰も孤立しないよう皆様が同じ場所へ集まる等の機会を多く設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所すると入所中ほどの関係を保つことが困難なこともあるが、再入所の意志あるときなどは出来る限りご家族とご本人の意思を尊重し対応している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時のリラックスした機会に暮らしの希望等を聞き取り、家族等の情報も収集し、把握に努めている。	入浴介助の1対1での対応の場面で、本人の希望や意向の把握に努めている。なお、聞き取ったことを記録に残し、職員間で共有を図っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約段階で、担当支援専門員がその把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の現状を常に把握し臨機応変に対応している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が職員から意見を聞いて介護計画を作成し、担当職員が日々の記録とモニタリングを行っている。状態に変化があった場合は随時見直している。	介護支援専門員が、日頃から利用者のケアに関わっており、現状を把握している。また、職員の意見も聞きモニタリングを行い、介護計画を作成している。なお、ケア会議の際には、職員の活発な意見交換が行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の状況等は細かく個別日誌に記録し、日々のケアや介護計画に反映できるようになっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医や歯科医について往診の援助を行うとともに、ご利用者の意向がある場合、母体施設のリハビリ・マッサージ等のサービスを受けることができるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際、御家族の方に来ていただいたり、消防訓練の際は地区消防署員の方に来ていただいている。また、地域の小中学校との交流を密にし相互交流の場を確保している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後もこれまでのかかりつけ医に受診することについてはご本人の意思に任せている。受診時はご家族の同行が基本ではあるが、緊急時は職員が付き添い、御家族との連絡を密にとるようにしている。	利用者が希望するかかりつけ医での受診が可能であるが、同法人の医師が1日1回訪れ病状の把握が行われている。なお、外部での受診の際は、家族の付き添いが基本となっており、病状については家族から報告を得ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の指導により日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には家族と連絡を密にとり早期退院に向けた話し合いの場を設けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とご本人の意思を優先しているが、状態が重度化したり終末期には併設の老健に移っていただいている。満床の場合はホームで待機していただいている。	基本的には、重度化したり終末期には併設の老健に転所していただいている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員の指導により緊急時の応急処置を身につけている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定による消防避難訓練を地域消防署の協力を得て年2回実施し協力をいただいている。	自治会の防災訓練に参加はしていないが、事業所の防災訓練の際に地域住民の参加協力を得ている。火災だけでなく、竜巻・地震等の災害も想定し、利用者や咄嗟にどのような対応をするかを話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ごく普通で自然な生活が享受できるように、特にご利用者さまに対する職員の言葉づかいに注意し穏やかな日々の営みができるよう配慮している。	法人の接遇向上委員会で作成された言葉遣いのチェックシート等を利用し、日常的に尊厳に配慮した言葉遣いに努めている。また、職員が不適切な対応をした場合には、主任が指摘・注意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自然で普通の生活が確保されるためにはご本人の希望や思いが実現できることが不可欠であるため特にこの点について配慮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者お一人お一人のペースに合わせた個別の対応により支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な好みの洋服を自由に着ていただいたり、整髪・整容の機会を持っていただき楽しんでもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や後片付けについて、御本人の体力などに応じて無理がない範囲で職員と一緒にいる方もいる。基本的にご利用者様の自由意思を尊重している。	調理は主に職員が行っており、ジャガイモをむくなど座ってできる工程を利用者の意向を大切にしながら関わってもらっている。なお、後片付けについても、できる範囲で利用者の協力を得ている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が記録されている。献立のカロリー計算は管理栄養士により管理されている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。その詳細を記録し清潔保持に役だてている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、お一人お一人に応じた支援を行っている。また、排泄介助の際には、個人の尊厳と羞恥心に配慮した言葉かけを行っている。	利用者の自尊心に配慮しながら排泄時の誘導の声掛けを行っている。利用者個々の排泄パターンを把握し、排泄自立に向けた支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給と医師の処方による服薬により対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の要望を聞いて機に臨んだ入浴時間帯の設定はされていないが、ある程度規則性を以って実施している。一日のリズムが保てる範囲内で個々の希望に沿った支援も重要と考えている。	週2回の入浴日の他、発汗が多い時等にはシャワー等で随時対応している。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず個々に合わせて支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動、作業などによる活性化を図り、安眠へとつなげている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ファイルに記載されている服薬の内容や副作用について理解し、処方箋に従って服薬介助を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報や、ご利用者とのコミュニケーションの中で、調理裁縫等日常生活の中に取り入れた活動を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には施設周辺の散策や、少人数に分かれてドライブ・買い物に出かけている。また年2回程度ご家族の協力を得ながら全員での外出による気分転換を図っている。	小人数でのドライブや、施設周囲の散歩、広い芝生等を活かした外出の支援が行われている。家族会を中心として、年に2回、遠足も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自らお金を使って買い物をするご利用者もいる。管理できないご利用者については職員がお金を預かり本人同行の上買い物を楽しんでいただき、支払いについては職員がすることになっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けていただいている。手紙等も自由に出していただけるよう支援しているが、あまり手紙、はがきはお出しにならないのが現状。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にご利用者の作品を展示したり、季節の花を飾ったりして季節感を取り入れている。	日々の室温湿度を記録し、生活環境に配慮している。また、共用空間には利用者の作品や家族の作品が飾られ、暖かい雰囲気づくりが行われている。なお、天候不順時には2ユニット分の廊下を運動場所として使用するなど工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で話ができるよう椅子を用意してあり配置換えも必要に応じて行っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの品を自由に居室に置いていただき、自然な日々を送れるよう配慮している。	居室には利用者のなじみの品が置かれ、居心地の良い空間となっている。また、毎月のカレンダーを利用者と一緒に作成し、掲示する等工夫している。さらに、遠方から来る家族が利用者の居室で泊まれるような配慮も行っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、食堂の自分の場所がご利用者の名前を付けて分かりやすくしている。ひとりひとりのわかることはご自分でできるよう安全の確保を重点に見守りによる支援を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1871700397		
法人名	社会福祉法人 坂井来春会		
事業所名	グループホームさかい 西ユニット		
所在地	福井県坂井市坂井町折戸1-58		
自己評価作成日	平成25年 7 月 22 日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成25年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1 毎朝朝礼後、基本理念・目標を全員で唱和し、資質の向上と意識の共有化を図っている。
2 家族会の協力を得て、事業所との連携を図り、サービスの向上に繋げている。
3 職員研修を毎月、項目を掲げ実施している。
4 感染症・疾病の予防に向け施設内外の清潔保持を心がけている。また、期間を定めて、外出・外泊の制限やご家族様の面会制限により感染症予防に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

以下、「東ユニット」とおり。
----------------

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の打ち合わせのなかで、管理者と職員全員でホームの理念を唱和し、理念の共有化を図っている。また、理念をパンフレットに同封したり契約時にも説明している。	以下、「東ユニット」のとおり。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや公民館の行事に参加するほか、ホームの催しごとに地域の方を招待するなど地域交流の機会を持てるよう配慮している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ十分とは言えないが地元の方にも参加を呼びかけ介護教室を開催している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表・家族代表・民生委員・地域住民代表・行政職員が、2か月に一回の推進会議を開催し、運営上の問題点や事故があった場合はその情報を公開し、共有化を図っている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故の報告や、運営推進会議等を通じて行政とのつながりを持ちつつ協力関係を構築している。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、止むを得ず安全の確保のため開錠してはいないが、それ以外の点については自由を束縛すると認められる処遇は行っていない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	完璧にはまだ遠い感があるも、概ね基本理念通りのことを実践できているのではないかと。特に言葉づかいを含め管理者の虐待に対する方針を職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修により、今後成年後見人制度の仕組みや知識を深める機会を多く設けるよう今後取り組んでいく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に、重要事項説明書、契約書を提示してご利用者様、御家族様に説明しご理解を得たうえで利用契約を締結している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会に行事や日々の運営の協力を得ている。家族会では、家族同士が気兼ねなく話し合えるよう環境づくりに配慮しその時の意見をもとにサービスの見直しに取り組んでいる。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中で、日常的に職員の意見、提案等を受け入れ、良いものは取り入れている。休暇等の要望はできうる限り実現できるよう調整している。毎日の打ち合わせにおいても意見や要望を聞く機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週二日程度グループホームに来て運営状況・職員の勤務状況を把握しつつ職員が向上心を持って働けるよう職員配置等に配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修には積極的に参加している。また、内部研修も設け計画的に実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することによって、情報交換しながら交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々、利用者の方を観察しコミュニケーションを図る。同じ目線で笑顔で話を聞くようにし安心感を持っていただけるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み時点で、御家族様のお話を伺い不安を解消できるよう、その思いをよく傾聴し受け止めるよう配慮している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員によるご家族とご利用者に対する聞き取りに十分な時間を使い初期段階での対応を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を、介護される一方の立場には置いていることはなく、御本人が自然な生活を享受できるよう信頼関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には出来る限り来所していただき、ご利用者との疎通が図れるよう働きかけている。近況をご家族にお伝えし話し合いの場を持ちつつ共にご本人を支えることができるよう配慮している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年は、思い出の場所として吉崎御坊へ参詣し、車の中でも手を合わせられたりして馴染みの場所との関係継続に配慮しつつ支援した。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、誰も孤立しないよう皆様が同じ場所へ集まる等の機会を多く設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所すると入所中ほどの関係を保つことが困難なこともあるが、再入所の意志あるときなどは出来る限りご家族とご本人の意思を尊重し対応している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時のリラックスした機会に暮らしの希望等を聞き取り、家族等の情報も収集し、把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約段階で、担当支援専門員がその把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の現状を常に把握し臨機応変に対応している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が職員から意見を聞いて介護計画を作成し、担当職員が日々の記録とモニタリングを行っている。状態に変化があった場合は随時見直している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の状況等は細かく個別日誌に記録し、日々のケアや介護計画に反映できるようになっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医や歯科医について往診の援助を行うとともに、ご利用者の意向がある場合、母体施設のリハビリ・マッサージ等のサービスを受けることができるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際、御家族の方に来ていただいたり、消防訓練の際は地区消防署員の方に来ていただいている。また、地域の小中学校との交流を密にし相互交流の場を確保している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後もこれまでのかかりつけ医に受診することについてはご本人の意思に任せている。受診時はご家族の同行が基本ではあるが、緊急時は職員が付き添い、御家族との連絡を密にとるようにしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の指導により日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には家族と連絡を密にとり早期退院に向けた話し合いの場を設けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とご本人の意思を優先しているが、状態が重度化したり終末期には併設の老健に移っていただいている。満床の場合はホームで待機していただいている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員の指導により緊急時の応急処置を身につけている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定による消防避難訓練を地域消防署の協力を得て年2回実施し協力をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ごく普通で自然な生活が享受できるように、特にご利用者さまに対する職員の言葉づかいに注意し穏やかな日々の営みができるよう配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自然で普通の生活が確保されるためにはご本人の希望や思いが実現できることが不可欠であるため特にこの点について配慮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者お一人お一人のペースに合わせた個別の対応により支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な好みの洋服を自由に着ていただいたり、整髪・整容の機会を持っていただき楽しんでもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や後片付けについて、御本人の体力などに応じて無理がない範囲で職員と一緒にやっている方もいる。基本的にご利用者様の自由意思を尊重している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が記録されている。献立のカロリー計算は管理栄養士により管理されている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。その詳細を記録し清潔保持に役だてている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、お一人お一人に応じた支援を行っている。また、排泄介助の際には、個人の尊厳と羞恥心に配慮した言葉がけを行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給と医師の処方による服薬により対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の要望を聞いて機に臨んだ入浴時間帯の設定はされていないが、ある程度規則性を以って実施している。一日のリズムが保てる範囲内で個々の希望に沿った支援も重要と考えている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動、作業などによる活性化を図り、安眠へとつなげている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ファイルに記載されている服薬の内容や副作用について理解し、処方箋に従って服薬介助を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報や、ご利用者とのコミュニケーションの中で、調理裁縫等日常生活の中に取り入れた活動を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には施設周辺の散策や、少人数に分かれてドライブ・買い物に出かけている。また年2回程度ご家族の協力を得ながら全員での外出による気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自らお金を使って買い物をするご利用者もいる。管理できないご利用者については職員がお金を預かり本人同行の上買い物を楽しんでいただき、支払いについては職員がすることになっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けていただいている。手紙等も自由に出していただけるよう支援しているが、あまり手紙、はがきはお出しにならないのが現状。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にご利用者の作品を展示したり、季節の花を飾ったりして季節感を取り入れている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で話ができるよう椅子を用意してあり配置換えも必要に応じて行っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの品を自由に居室に置いていただき、自然な日々を送れるよう配慮している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、食堂の自分の場所のご利用者の名前を付けて分かりやすくしている。ひとりひとりのわかることはご自分でできるよう安全の確保を重点に見守りによる支援を行っている。		